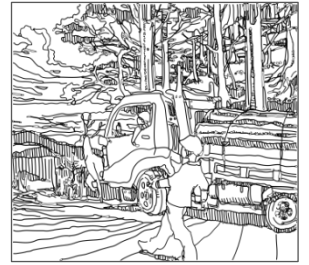


No.10

京林大だより



絵：京林大生 熊走君

キャップストーン研修 ラストスパート!



9月から2年生を対象に始まったキャップストーン研修もいよいよ佳境を迎えました。キャップストーン研修とは、就業を見据えて林業の現場等の実社会で実務体験をするものです。10月1～3日と11月1～5日にはそれぞれ1ヶ月の区切りとして、林業大学校にて研修報告会を行い、学生はお互いの研修先での体験談を語り合いました。



学生はキャップストーン研修中、毎日日誌を付けることとなっています。日誌には日々の業務内容や仕事に対する姿勢等、学習したことがびっしりと記載されており、研修先からのコメント欄には大変貴重なお言葉を頂いています。日誌はまさに成長の記録となっています。報告会では日誌を整理して発表し、お互いの体験をしっかりと共有することができました。

10月の報告会では緊張から解放され少しホッとした様子と、たくましく成長した様子が入り交じって見られましたが、11月の報告会では社会人として自分の力不足を反省する姿や、真剣に卒業論文に向けた具体的な課題の検討を行うなど一段と成長した姿が見られました。学生からは「学校では学べない、現場の仕事の難しさを知ることができた」「自分のしたい事を見つめ直す貴重な機会になった」等の声が聞かれました。

3ヶ月間と長期間で苦勞も多いですが、その分得るものも非常に大きい研修になっています。改めてご協力いただいている多くの皆様に感謝し、研修終了までよろしくお願い申し上げます。



京丹波EXPO2013inなんたん 『林大生ハッスル!!』



10月19日（土）に南丹市園部町のB&G海洋センター内のスパーク園部広場で、「京都丹波EXPO2013inなんたん」が開催されました。この企画に林大1年生24人が「人・里・山交流実習」の授業の一環として「間伐材を使った丸太椅子づくり」に取り組みました。

開催時間前から待ちきれない親子連れが殺到し、整理券を発行するなど時間帯を定めて挑戦していただくという人気ぶりでした。取り組んだ学生は「事前準備が実習を終えて疲れきった時間外で大変だったが、親子連れの真剣な表情と完成後の満足きった笑顔に、充実感や、やりがいを感じた」とのことでした。ハッスルお疲れさまでした。



研修科「森林保全研修」開始!

平成25年度研修科「森林保全研修」が10月27日（日）に開講しました。

森林の生態から安全な森づくり活動の実践、森づくり活動の企画・立案までのノウハウを習得することにより、主体的にモデルフォレスト運動を推進するリーダー養成を目的としています。

開講式では只木校長が「企業の社会貢献としての森林管理」と題して講演を行いました。



校長室より

『落ち葉の季節です』



秋です。山は紅葉、黄葉、落ち葉のシーズンになりました。紅葉・落ち葉といえば、まずモミジなどの落葉樹を思い浮かべます。しかし、落葉樹だけではなくありません。マツやヒノキなど常緑の針葉樹にとっても秋は落葉の時期なのです。もっとも葉の一部を落とすだけで、冬も裸にならない常緑樹では落葉が目立たないのは当然でしょうが、常緑樹林も、落葉樹林とほぼ同じくらいの目方の落葉があるのです。

昭和30～40年代、森林の物質量を直接測定する研究が盛んな時期に、落葉量もあちこちで測定されました。その結果を集約すれば、わが国での閉鎖(葉ですっかり覆われた)した林の落葉量は、1年間に1㎡に約300g（1ヘクタール約3トン、カラカラ

京林大のヒミツ



— 二本松学院学園祭 — 林大生の友情参加



1年 中田 昂希

10月26日（土）、二本松学院において松葉祭が開催され林業大学校は友情参加として出店・展示をさせていただきました。

今回は、林大にしかできない事を考え、竹筒に杉・松・檜などの樹木を盆栽のようにしたもの、自分たちで焼いた竹炭を販売しました。

途中で価格変更をしたものの、何とかすべてを売り切る事ができました。

展示の方は、思ったよりもたくさんの方に来ていただき林業大学校の存在を知っていただく事ができました。

中には、質問をしてくださる方もいて、こちらも、良い経験を積むことができました。



に完全乾燥させた目方一絶乾重)。それは、落葉・常緑、広葉・針葉の差無くどんな樹種の林でも、ほぼ同じだったのです。

同じ時期に、毎年の新化した葉の量も各種の林で調べられました。その結果はどの樹種の林でも、新生葉量は年間落葉量とほぼ同じでした。

毎年、同じ量の葉が新生して、落ちる、その年々の繰り返しを考えれば、森林の持つ全葉量は、今年出た葉が何年枝に着いているか、つまり葉の寿命で決まることとなります。

この話に関連の森林の葉量や、シイやカシなど常緑広葉樹の落葉の話題は、また稿をあらためて・・・。

(校長 只木良也)